

かんじょうどうぐ
灌頂道具

<概要>

員数 1具
時代 鎌倉時代～江戸時代

性海寺に伝来する灌頂¹の秘密道具と関係品で、内容は金銅宝冠、宝冠、白拂²、団扇、五鈷杵³、金鉚⁴、明鏡、輪宝⁵、法螺、水晶念珠、小盤、四槩⁶、蒔絵灌頂道具箱である。

性海寺は平安時代以前より存在した真言宗智山派の寺院で、鎌倉時代に京都東山の東岩蔵寺を本地とする岩蔵流を伝えた灌室⁷であった。江戸時代初期に法流が途絶えたことから、寛永16(1639)年に45世住持となった實紹^{じっしょう}は、地蔵院流を相承する宥雄和尚から伝法を受けた。さらに宥雄の弟子亮元^{りょうげん}に性海寺を譲るべく灌頂の準備を進め、翌年亮元が住持を継いで、万治3(1660)年に灌頂壇の開壇がなされた。

真言宗の灌頂道具で、鎌倉時代まで遡るものは、高野山竜光院伝来品(重要文化財)、水戸市六地蔵寺伝来品(茨城県指定文化財)などごくわずかである。性海寺伝来の本品は、それらと同等の時代性をもつだけでなく、岩蔵流という希少な流派の灌頂の具体像を示し、また近世に地蔵院流として再興された当初の道具類も合わせもつ点でも全国的にもきわめて注目すべき密教遺品といえ、県有形文化財として指定するにふさわしいものである。

- 1 密教で師匠の位を得ようとする者に対して、大日如来の秘法を特定の作法によって授ける儀式。
- 2 獣毛や麻等の繊維を束ねて柄をつけたもので、仏教の法要の際に僧が威儀を示すために用いる法具。
- 3 杵の形をした煩惱を打ち破り、悟りを求める心をあらわすための法具。
- 4 もとは古代インドで眼病患者治療の医療器具であったものが法具に転じたもの。
- 5 もとはインドの兵器で、車輪の形をして八方に鉾先を出す法具。
- 6 加持祈祷を行う壇の四隅に立てて結界を表わす法具。
- 7 灌頂を行なう部屋。



灌頂道具 1 具 (愛知県提供)